

JR
総連

闘争本部情報

第8号

全日本鉄道労働組合総連合会 <http://www.jr-souren.com/>

デタラメ『週刊現代』！ここが問題だ！ 1

回復運転指示の「一斉放送」中止を
『電車が遅れる原因は「革マル派」だった！』と
デタラメに展開する西岡研介氏

7月15日から「テロリストに乗っ取られたJRの真実」という見出しで連載を続ける『週刊現代』。シリーズは10月16日発売号で13回目となり、相変わらずデタラメな内容を繰り返しています。

13回目の記事では「電車が遅れる原因は『革マル派』だった！」と、JR東労組の『コンパス』を引用しています。『コンパス』44では東京地本青年部が「耳を疑った「迅速なドア扱いで定時運転確保に努めて下さい」の指令」として、「一斉放送」を問題にし、職場で取り組み、中止させた取り組みを紹介しています。

『週刊現代』筆者の西岡氏は、

「『定時運転確保』のために乗務員に向けておこなった一斉放送に噛み付いたわけである。いったい、どういうことなのか。」として

「公共交通機関、中でも鉄道会社に与えられた至上命題は『安全運行』と『安定輸送』である。その安定輸送に乱れが生じたなら、それを少しでも回復しようというのは鉄道会社として当然のことだ。ところが、それに“待った”をかけた団体がある。松崎が支配するJR東労組だ。(略)JR東労組の主張は一見、極めて真つ当なものに見える。が、果たして彼らに『安全』を語る資格はあるのか……。」

と展開し、JR東労組の職場での安全の取り組みを否定しています。しかも記者会見での清野社長の「しどろもどろ」な対応を指して、

「殺人や住居侵入、盗聴や窃盗など目的のためには非合法な手段も厭わないテロリスト集団『革マル派』。その『最高幹部』といわれる松崎に支配されたJR東労組に、たやすく屈しておいて『テロリストに乗っ取られていない』とは笑止千万というほかない。」

と、「テロリスト集団『革マル派』に屈している」と、会社を叱咤しています。

ラッシュ時での乗務員の気持ちをあおり、危険な回復運転を指示する「一斉放送」。それに対して安全第一の観点からその是正を求めるのは当然のことです。しかし西岡氏は、「一斉放送」は首都圏で相次ぐ列車妨害や輸送障害に対して定時運転確保のためにおこなっている」という「現役幹部」の発言を引用し、この取り組みを否定しています。しかもその『コンパス』を「妖怪の教えを学ぶ教科書」だとして、「松崎に支配されているJR東労組」だということです。

西岡氏が、私たちの安全と命を守るための取り組みを否定し、テロリスト集団「革マル派」によるものだとして、JR東労組組合員を「攻撃」することを許してはけません。

JR総連とJR東労組は10月17日、『週刊現代』の加藤編集長に『公開質問状』を送付し、見解を求めました。

(『公開質問状』は、『闘争本部情報』第9号を参照してください)

